

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 楽天損害保険株式会社（証券コード：-）

### 【据置】

長期発行体格付	A
格付の見通し	ネガティブ

### ■格付事由

- 楽天損保は、楽天グループの損害保険会社。楽天グループが議決権を100%保有し、取締役を複数名派遣するなど、経営の意思決定や経営管理の一体性が強い。また、楽天エコシステムには、EC、カード、旅行、ゴルフといった損害保険と親和性の高い事業が多く、楽天損保とのグループシナジーが想定しやすい。楽天グループとの事業運営上の結びつきは極めて強く、楽天損保は戦略的に重要な位置付けにある。22年1月には中間持株会社である楽天インシュアランスホールディングスを通じて2度目の資本支援が実施された。これらを踏まえ、楽天損保の発行体格付は、楽天グループのグループ信用力「A」相当と同等としている。格付の見通しは、楽天グループ株式会社に合わせて「ネガティブ」としている。
- 国内の各事業セグメントにおいて相応のシェアとブランド力を誇る楽天グループの一員として楽天エコシステムの顧客にアクセスできることは、楽天損保の顧客認知度の向上や販路の拡大にプラスに働いている。19年12月から楽天ポイントの対象となったことにより、グループ内での顧客誘導の成果も出てきている。国内損保市場においては商品の多様化と販売チャネルの複線化が進展しており、競争が激化しているが、楽天ブランドの下で訴求力のある商品提供によりニーズを掘り起こしていけるか注目していく。
- 保険料収入は、商品ポートフォリオの改善に向けた引受の厳格化などにより減少傾向で推移している。20/3期は繰延税金資産の取り崩し、21/3期は異常危険準備金と追加責任準備金の繰り入れなど一過性の要因から2期連続の最終赤字となったが、22/3期は、楽天エコシステムでのシナジー発揮による収益拡大や再保険政策を含めた支払保険金の適正化に向けた取り組みの成果により最終黒字を確保した。もともと、コンバインド・レシオは依然として100%を大きく上回る水準で推移しているため、引受の適正化や業務効率化などが課題となっている。ネット販売チャネルでの増収、楽天生命との協働、楽天グループ内でのシナジー発揮を見据えた取り組みの成果などに注目していく。グループからの財務支援により、ソルベンシー・マージン比率は22年3月末で1,000%超と高水準にあり、経済価値ベースでみた資本も一定の水準を確保している。
- 保有有価証券にかかるリスクは資本対比で管理可能な水準にある。価格変動リスクの削減に取り組んできたほか、外国証券の為替リスクは大宗がヘッジされ、金利リスクについても資産と負債のデュレーションをマッチングすることで抑制している。資産運用リスクの削減に加え、保険引受リスクも再保険スキームなどにより抑制している。商品ポートフォリオの入れ替えが進みつつあるが、リスク・リターンバランスを踏まえた価格戦略や保険引受リスクの適切な管理などを通じて、収益を安定的に確保することができるかがポイントとなる。

(担当) 宮尾 知浩・阿知波 聖人

### ■格付対象

発行体：楽天損害保険株式会社

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	ネガティブ

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2022年9月30日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩  
主任格付アナリスト：宮尾 知浩
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「損害保険」（2013年7月1日）、「企業グループの傘下会社の格付方法」（2022年9月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 楽天損害保険株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会が定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル